

教材教具名 ケチャップチューブ

教科(図工)



教材教具の概略(ねらいと使い方) 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等

- 1 ねらい チューブを指や手のひらで押す、握るなどの操作を通し、手指の操作性を高める。
- 2 発達段階 力を入れて物を握る、床や机に向かって物を押し付ける動作が見られる。
紙に色がつくのを見る、目で追う。
- 3 使い方 100円ショップで売られているケチャップチューブの先をハサミで切り、穴を開ける(児童の力に合わせて大きさを調節する)。
中に色水を入れ、ふたをしっかりと閉める。
チューブを握ったり、机に押し付けたりして障子紙などに飛ばし、色をつける。

児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等(次に利用する方のために)

図工「染めてつくろう」の単元で使用した。水鉄砲のような楽しさがあり、大きな障子紙にダイナミックに色を描くことができた。

チューブを押すことと、色水が出ることの因果関係が理解しにくい児童もいたので、色水を入れる前に児童の手や顔にチューブで空気をかけてやり、一緒に遊ぶと分かりやすい。

児童によっては押しても色水が出にくいので、少しの力で色水の出る大きいチューブを使用したり、先端の穴を大きくしたりすると良い。

押して色水を出した後、一度手を離してチューブ内に空気を入れないといけないのが難点。手を添えて教員が支援したが、何度か繰り返し使うと理解できてくると思う。